

普及項目	担い手
漁業種類等	養殖業、漁船漁業
対象魚類	-
対象海域	有明海、八代海、天草海

熊本県立天草拓心高校マリン校舎と連携した担い手確保・育成の取組み 水産研究センター企画情報室・多治見 誠亮・篠崎 貴史

【背景・目的・目標（指標）】

本県の漁業就業者数は全国同様に減少傾向が続いており、令和5年（2023年）は平成30年（2018年）比で23.6%減の約4,000人まで減少している。また、就業者のうち60歳以上の割合が57.8%に達し、増加傾向である（出典：2023年漁業センサスデータ）。この状況を踏まえ、本県では、漁業就業前から就業後までを一体的に支援するワンストップ体制を構築し、担い手の確保・育成に取り組んでいる。

一方、持続的に担い手の確保を図るためには、将来の水産業を支える次世代人材の発掘が不可欠である。このため、県内唯一の水産系高校である熊本県立天草拓心高等学校マリン校舎（以下「水産高校」という。）と連携し、高校段階から、水産業の魅力に触れる機会を創出するため、同校生徒に対する現場実習等を行うこととした。なお、実習は計7回以上実施することを目標とした。

【普及の内容・特徴】

表1のとおり、令和7年（2025年）7月から令和8年（2026年）2月にかけて、現場実習等の取組みを計7回実施した。また、実習等の実施にあたっては、生徒が水産業を将来の選択肢として考えてもらうための「きっかけ」を提供するため、幅広く水産業の魅力に触れる機会を創出できる取組みを選定した。

【成果・活用】

実習に参加した生徒からは、「天草の基幹産業である養殖業や天草ならではの漁船漁業への理解が深まった」、「水産食品加工業が天草の重要産業であることを再認識した」、「ノリには様々な等級があることを知った」等の声があった。

また、実習後のアンケート※では、参加した6割の生徒が水産業に対するイメージが変わった、9割の生徒が職業選択の一つとして水産業界を意識するようになった、という結果であり、水産業の魅力発信に繋げることができた。

※スマート水産業に関する現地実習（漁船漁業）後に実施したアンケートによる。

【達成度自己評価】

4 目標（指標）はほぼ達成できた（76～100%）

表 1 水産高校と連携した現場実習等について

実習名	日時	参加者	実施場所	内容
スマート水産業に関する現地実習（養殖業）	10月20日（月） 10時00分～ 15時00分	栽培コース 14名	天草市牛深町	・魚類養殖業の仕事内容、スマート機器（自動給餌機）の活用について学習。（図1）
スマート水産業に関する現地実習（漁船漁業）	11月4日（火） 13時00分～ 15時30分	海洋航海コース30名	天草市牛深町	・手繰網漁業等の作業方法、スマート機器（プロッター等）の活用について学習。
水産加工場見学の実施（第1回）	10月15日（水） 9時00分～ 16時00分	食品コース 8名	天草市栖本町、宇土市笹原町	・養殖魚のフィレ加工工場における加工作業や高度衛生管理（HACCP）、輸出の状況等について学習。（図2） ・海藻加工場における製造工程、品質管理について学習。
水産加工場見学の実施（第2回）	2月25日（水） 10時00分～ 15時00分	食品コース 4名	宇土市住吉町、熊本市西区、同市東区	・乾ノリ製造工場の見学 ・ノリ入札会場見学 ・ノリ加工品工場見学
くまもと食の名人等と連携した調理実習の開催	12月5日（金） 9時00分～ 12時30分	食品コース 8名	食調理実習室	・プロの料理人から、県産水産物の捌き方や調理方法等について学習。
水産高校のPR	①7月12日（土）及び15日（月） ②7月24日（木）	-	-	・テレビ放送や新聞紙面を活用して、水産高校の実習施設や教育内容のPR。
大型定置網漁業見学の実施	10月21日（水）	海洋航海コース12名	天草市天草町	・荒天により中止。
水産研究センターオープンラボ実習等の実施	6月16日（月） 10時00分～ 14時00分	食品コース 8名	上天草市大矢野町	・生徒が開発した未利用魚を活用したカレーの細菌検査等の実習、施設見学。



図 1 スマート水産業に関する現地実習（養殖業）

図 2 水産加工場見学の実施（天草市栖本町）